坑内現場から

―浜口国雄詩集を読んで―

三川指導部 月野貞信

まだ六月だというのに
湧水五〇度
払跡四五度

排気道に繰り込まれた時から
口をへの字に曲げています
入坑口に丸い筒が置かれ
一錠 ポトリと栄養剤がでてき
ます
むりやり口におしこむ者もいれ
ば
壁に力いっぱい投げつける者も
います

木綿の黒シャツを着
ベルトを腰につけ
安全灯をかけ
COマスクをつけると
ペンチをさします
防塵マスクを首に落し
脚絆と保安靴のヒモを点検しま
す
日本タオルではちまきをし
鉄帽をしっかりかぶります
温度計とメモ紙を胸にしまいま
す
おわりに
腰に洋タオルをキュッとしばり
上からポンと叩きます
それでもグズグズしています
職制は「サア、サア」といった
り
「行キマショウカ」とさいそく
ウロウロ目の前を歩きまわりま
す
これ以上引きのばせない時間で
す
相棒と立ち上ります

工具倉庫でツルハシとスコップ
を借り
肩にかつぎます
二重風門を開けると
特有の匂いと熱風がムッときま
す
一〇〇メートル 三二度
三〇〇メートル 三三度
七〇〇メートル 三四、五度
七〇〇―ここが一日四千七百円
になる現場です

レバーをかついだ機械工が背を
つつき
函がトラフを積んで通ります
B・Cモーターがうなっていま
す
ベルトがまわっています
ベルトの上は山盛の炭です
こぼれ炭がチリチリ音を立てて
います
下は微粉炭で真黒です

ベルトのこげる匂いがします
B・C当番が 電工が走り
無線機が声をまき散らしていま
す
しゃばでは
十三回忌を迎えたCO患者と遺
族が
すわりこんでいます
ゼロ回答に怒っています
あせはタオルから首すじに流れ
シャツとパンツをぬらし

脚絆から靴下の足先までとどき
ます
あせの道ができます
しぼります
しぼった汗が緑色に光り
職制が笑いを浮かべて近ずいて
きます
仕事がもう一つふえそうです
握ったスコップを放り出し
相棒と腰をおろします

「死ぬかと思った」

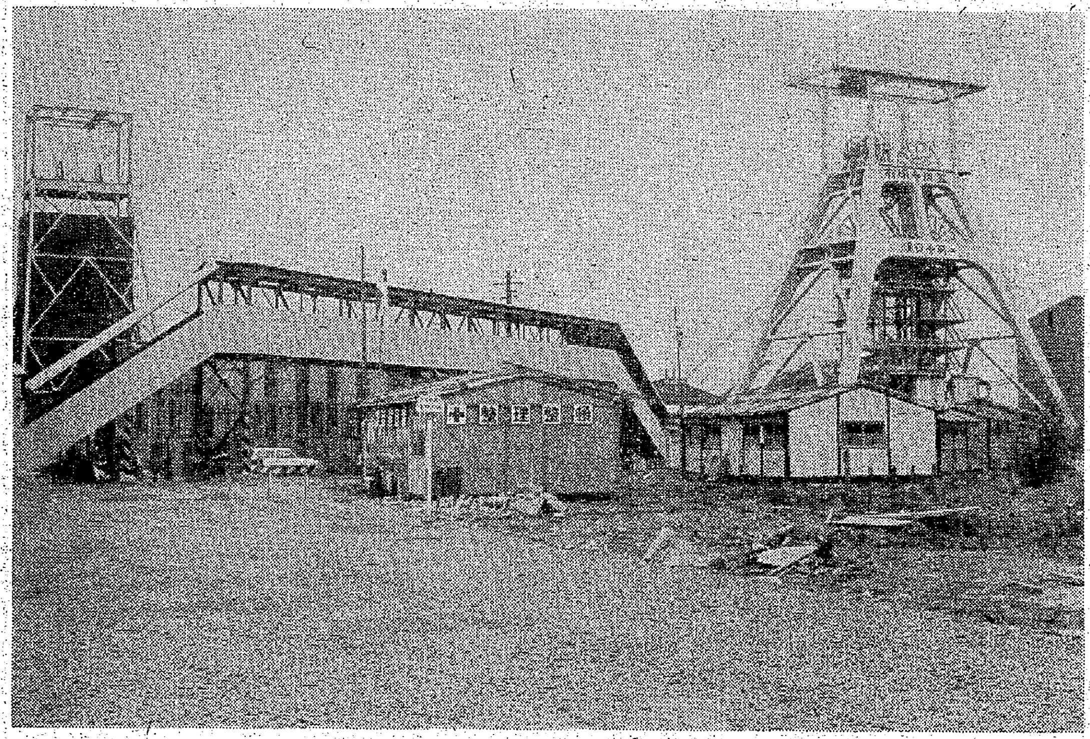
人車同志が衝突脱線

三川指導部職場七分会新聞〃あせ〃が伝えるところによれば、六月八日五百二十メートル（坑道四山鉱担当）で、人車同志の衝突、脱線事故が起きゾッとさせた。

常一番勤務者を現場に運ぶ二番人車が詰ゆきの線路にはいった際最後尾がまだはいりきっていないところへ、坑底に向かう人車（空函）が衝突、前の人車二輌が脱線。

坑底ゆきの人車はそのまま約五十メートルも突っ走ってようやくとまった、という。

人車の最後尾近くに乗っていた人びとは、「死んだかと思ったゾ」「こんな恐しい目にあったのは初めてだ」と恐しさを語った。



何ごともなさそうなたたずまいの、有明炭鉱。きたる10月には、三池炭鉱に合併。この地下一帯の縦横に坑道が走り、採炭切羽が展開する。職場は地獄だ。すでに、二人の労働者の命が坑底で消えた。

日ごとに広がる波紋

宮浦鉱閉山 有明鉱統合 合理化攻撃はげし

宮浦鉱の三川鉱への統合閉山、有明炭鉱の三池炭鉱への合併を契機に、これ以上の労働力の省力化や石炭生産のコスト引き下げを目指す会社の合理化が、右目標の十月一日にまだ遠いというのに、あらゆる職場ではげしく押し出されてきている。[redacted]

しかも当の宮浦鉱はもちろん、四山・三川両鉱の坑底はますます加わる高温にまいっている。三川鉱下部五十の五卸の払など、ゲートの溜り水がなんと手がつけられぬほどの熱さ。

もちろん冷凍機が切羽などに涼風を送ってはいるものの、出る涼風はまわりの熱気で蒸気にかわって、返って湯気をまき散らす。汗でぐちゃぐちゃになった作業衣がキャップランプに光ってくる。

それに同鉱上層六十の六片では胸までズンブリとつかるほども出水した。

とにもかくにも出炭にだけ目がくらみ、あとの付髄工事や保安設備など追いつかず、そのため三～四時間の残業が定作業化しつつある。「残業はいやだ」といえば、すぐ「何っ」と職制の目が光り、休めばすぐ出動督励がやってくる。

四山鉱では採掘を終って、すでにレールも撤去したところを再度柱房式で採炭を開始する。払づくりのための掘進作業が追いつかぬところからの苦肉の策とも思われて、そこに目標出炭を遮二無二すすめる会社の態度がさらけ出されている。

とにかくヤマの違いを問わず、坑内温度三十一～二度はざらで、そんなところでも労働者は、職制から追いたてられながら働いている。熱中症で倒れる例も、少いことではない。

あわや大惨事にも

四山鉱でVベルト焼く

去月二十五日のこと、四山鉱の坑底上層西三十六添卸西一片（坑口から六千五百六十五メートルはいったところ）のプランジャーポンプ（油に圧力をかけ、払の自走枠や水圧鉄柱などを押し上げるのに使う）のVベルトが煙をだし、作業員をあわてさせる事故発生。

ベルトのたるみから摩擦熱を生じたもので、あわてて係が水をかけ大事にいたらずにすんだもののうっかりすれば大惨事につながるものとして、会社に対する職場の強い抗議行動がまき起こった。明らかに点検・整備の不十分さが呼んだもので、労働力の省力化とコスト引き下げに目がくらんだ会社の合理化こそ、真の原因のあることを疑うことはできず、会社の責任は重大だ。

結婚十周年記念に思うこと

沖縄 平良通子

東さんありがとうございます。今日、三池は私にとって単になつかしいところだけではなく、「闘いの故里」「実践の宝庫」となっています。

あれから（婦人まなぶ集会）早や二年、めまぐるしい毎日でしたけれどもとても充実した日々でした。三池で学んだことのほんのちょっぴりですが、私なりに実践できたと思っています。

社青同の仲間も三ケタになりました。婦人同盟員も当時私一人だったのが、いまは十一名もいます。ほんとに歴史は前進しています。

今年三池にまなぶ婦人集会に参加した二名も、私と同じように感激と自信を、たっぷりと沖縄にもち帰ってきました。私の心の中で燃えつづけている三池の火と合わせて三つ、いま勇気いっぱいです。

十九日（土曜）には報告会がありますが、私は彼女たちと一緒に三池に行かなかったことを後悔しています。来年は行きたい。その時はよろしくおねがいします。

話は変りますが、夫は八月に訪ソの計画です。（ハバロフスク）毎日ロシア語のテキストとロシア史をひっくり返し、子供のようにニコニコしています。

私たちは今年で結婚十周年ですが、昨年の九年目の記念日に富士山を見にいきましたので、今年は彼の訪ソで記念しようというのです。

六月の声を聞くと思い出したように、二人だけの早朝学習会が始まります。今年も始めましたが、いつまでつづけられることやら…。くじけそうになったら〃三池〃を思いおこし、頑張り通したいと思います。

メルサ（お嬢さんのお名前＝整理者註）も、もう三歳です。いまでは何をみても「レーニン、レーニン」で、三池の労働者といえば「レーニン」というので、上の兄たちからゲンコツです。それでも「レーニン、レーニン」という頑固さは母親ゆずり、と夫の弁。

長い夏がやってきます。ともに気をつけガンバリましょう。

×

右のお便りは、主婦会臼井地域分会の東敬子さんのもとへ寄せられたもので、なお平良さんのお住まいは「沖縄県浦添市茶山団地C－一四」です。お元気でお過ごしくださるように。

御礼

医療公害被災者・大場みき子さんの裁判闘争に対して、多くの皆様から多大のカンパ、並びに寄せ書きなど、物心両面から寄せられたご支援に対して、厚くお礼申し上げます。

大場さんの裁判闘争の内容については、機関紙〃みいけ〃で何回も報じられましたので省略させていただきますが、浦和市立病院の看護婦さんとして多忙など勤務の中、はるばる三池にまなぶ集会に参加してこられたお元気な頃の大場さんのお姿がまだ私のまぶたの中から消えません。

その大場さんが、医者の不注意から生れもつかぬ不具にならなれたのですが、残念でなりません。このようなことさえなければ、当時すでに婚約中であった方と、今頃はしあわせなご家庭を築かれ、子宝に恵まれておられたことでしょう。

とにかく、一日も早く裁判の勝利と、少しでも健康な体を回復されることを祈っております。

ご支援下さいました皆様に、心からお礼申し上げます。とくに新港地域分会、主婦会の皆様の全面的なご協力に、厚くお礼申し上げます。有難うございました。

新港三川地域分会
柳田秀吉